

平成 26 年 1 月 26 日

吉井側右岸の貝塚 現状報告

中西厚 丸谷憲二

1 はじめに

小野伸氏の「西大寺新発見の縄文時代貝塚」の考古学研究会第 60 回総会・研究集会(岡山大学 2014 年 4 月 19・20 日)での「発表」が決定したとの連絡が遠部慎先生(北海道大学埋蔵文化財調査室)からありました。「西大寺新発見の縄文時代貝塚」とは、私の住む**金山団地町内会**で発見された「**金山西貝塚**」のことです。発表者は小野伸・畑山智史・遠部慎氏の 3 人です。この機会に吉井川右岸の貝塚の現状を報告します。12 月 12 日に沼貝塚と竹原貝塚、12 月 20 日に**草ヶ部の法迫(ホウエ)貝層**を中西厚氏に案内していただきました。**法迫貝層**については貝層であり別途報告致します。

2 「西大寺新発見の縄文時代貝塚」の発表要旨

岡山市西大寺地区ではこれまで縄文時代の遺跡がかなり希薄である、という認識であった。そうした中、古くから沼田頼輔の調査した金山貝塚が知られている。しかしながら、中世の時期も含み、資料は散逸しその実態は不明である。そうした中、周辺で発見された**金山西貝塚は縄文時代後期の貝塚である**ことが土器や年代測定の結果、明らかになった。金山西貝塚は、沼田の指摘していた地点と明確に異なり、岡山市東区において約半世紀ぶりに発見された**縄文時代後期貝塚**といえる。(遠部慎先生)

縄文時代は、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の 6 期に分けられる。この時期区分を、AMS 法で測定して暦年代に補正した年代で示すと、草創期(約 1 万 5,000 - 1 万 2,000 年前)、早期(約 1 万 2,000 - 7,000 年前)、前期(約 7,000 - 5,500 年前)、中期(約 5,500 - 4,500 年前)、後期(約 4,500 - 3,300 年前)、晩期(約 3,300 - 2,800 年前)となる。

2.1 金山西貝塚の発見場所と発見年



平成 25 年(2013 年)



昭和 55 年(1980 年)6 月 7 日金山西貝塚発見



小野伸氏の説明では「**金山西貝塚発見は昭和55年(1980年)6月7日**。発見場所は金山団地の育英ゼミナール横の村井豊氏宅横(写真表示)です。しかし、昭和60年(1985年)からのカネボウハウジング(株)による**第2金山団地造成工事**で埋められてしまった。」とのこと。金山団地町内会の発足は昭和56年(1981年)9月です。**金山の山裾に形成された貝塚**です。

金山団地には縄文時代後期前半(約4,500年前)から縄文人が住んでいました。備前西大寺

は吉井川の中州に発達した町です。吉井川の中州と瀬戸内海は何処で分離されるのでしょうか。

2.2 ハマグリの年代測定

金山西貝塚の年代測定について、**ハマグリの年代測定**を行い、縄文後期前半ごろの値が得られました。**西大寺で新発見の縄文後期貝塚**です。貝類の計測分類、成長線分析、年代測定です。他に、ハイガイ・カキ・シジミ・ヘナタリが確認されています。(遠部慎先生)

3 金山貝塚

金山の大半が岡山学芸館高校と岡山市立西大寺小学校の敷地になっています。

金山貝塚に関する論文は山陽新報に、明治41年3月9日、16日、23日の3回連載された沼田頼輔氏(1867-1934)の『金山の古今』のみです。沼田頼輔氏とは西大寺高校の前身、西大寺町立高等女学校の初代校長です。退官後、明治44年から山内侯爵家史編纂所主任となり、大正15年「日本紋章学」で学士院恩賜賞を受賞しています。

小野伸氏と二人で金山貝塚跡を探しましたが、理科教室の背面築地が不明であり発見出来ませんでした。

3.1 沼田頼輔著『金山の古今』の要点

① 貝塚の遺跡

金山の貝塚は余の発見に係りしも惜い哉、高等女学校の敷地に係り校舎建築のために、その遺骸を一掃せしが故に今はこれを知ることが得ず。ただ同校理科教室の背面築地の付近に僅に貝殻の散点せるを見るのみ。

② 縄文土器

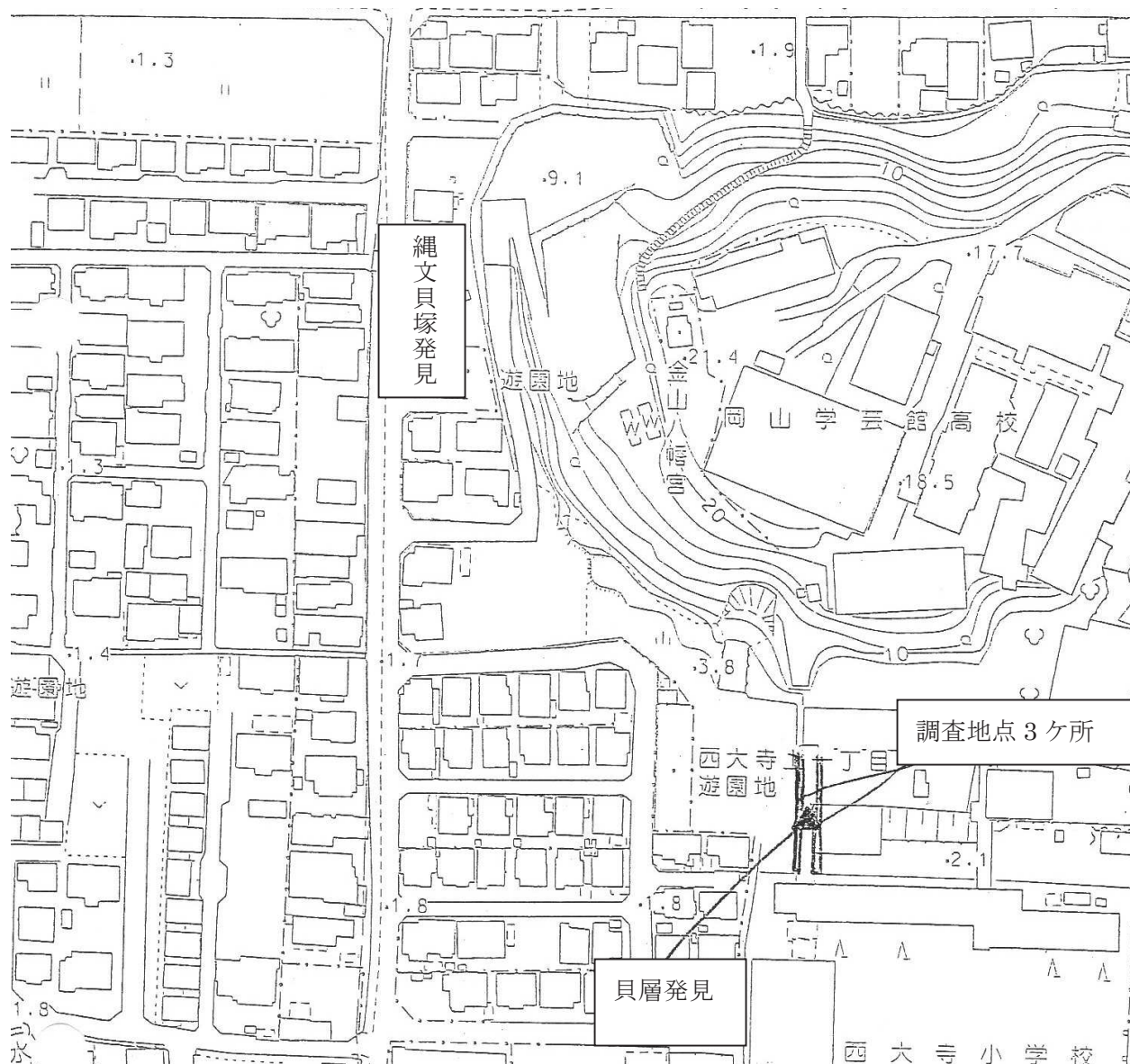
当時余は其の遺跡中より縄文土器の一片を獲てこれを珍襲せしも、今はこれすら紛失して見るを得ず実に惜むべきなり。

③ 古墳

この古墳も亦高等女学校の敷地に属し校舎建築の為に偶然発見せしものなれども往時既に何人かこれを発掘してその石廓は既に破壊せられ巨大なる天井石は運び去られて両側の石壁も亦既に全形を失ひその位置も著しく変りたれど埋葬せられたる巖瓦等の比較的完全のもの多かりしは不幸中の幸福なりき。・・・古墳のありし位置は第一号校舎一学年教室の

東にありて眺望絶景なれば所詮謂「朝日さし夕日かがやくてふ」当時の理想的兆域にも適當する地形なるのみならず他に古墳の存在を認めざれば少なくともこの古墳の大化新制以前に係るものたるや疑なしとす。

4 西大寺小学校の中世貝塚



西大寺小学校校舎の耐震化工事計画に関わる試掘が実施されました。菅京子前校長先生より「平成 24 年 8 月に試掘が実施された」とお聞きしていました。

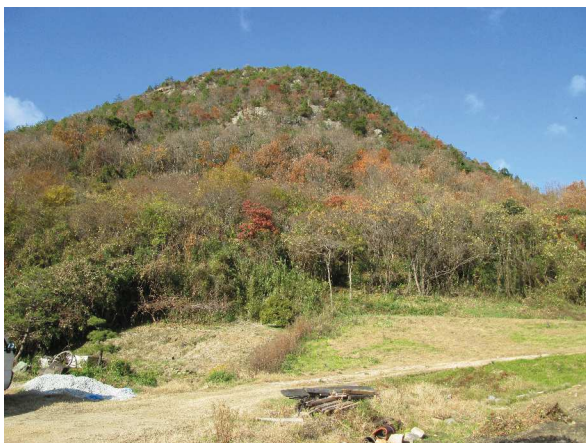
貝塚調査は岡山市教育委員会文化財課の高橋伸二先生が実施しました。乗岡実先生から、「添付図にある校舎廻りの三ヶ所に深さ 1.5～2m、幅 1m 弱、長さ 2m 足らずの試掘孔を設定して土層堆積を確認しましたが、いずれも平安時代前後とみられる湿地堆積土層や近代の水田層があるのみで、貝塚（貝殻堆積）や縄文時代の遺構などは確認されませんでした。この場所は北の丘陵に対して低い位置であるので、貝塚などの生活痕跡が確認されないのは自然に理解されます。」との報告でした。

4.1 昭和 57 年「金山貝塚(西大寺小学校)発掘調査について」報告書

調査報告は岡山市教育委員会文化課の根木修先生です。平安時代後期の土師器細片発見、ハイガイが破棄された年代と報告されています。金山西貝塚に矢印を付けています。縄文貝塚発見場所は金山の山裾であり中世貝塚の発見場所とは直線距離にして 30m です。

金山貝塚（西大寺小学校）発掘調査について		ヤマト・ベニガイ 発見 氏より
調 査	： 1982 年（昭和 57）	
調 査 主 体	： 岡山市教育委員会文化課（当時）	
調査の経緯	： 西大寺小学校整備の一環として校地北西に渡り廊下を建設するために必要な支柱の設置穴を掘下げたところ貝殻の散布（遺跡）が発見されたため、緊急の調査を実施した。	
調 査 面 積	： 30 m ²	
調査の結果	： 渡り廊下の工事で地山掘削が行なわれる総ての支柱設置穴を調査対象としたが、支柱設置のための各穴は小さく、また疎らであることも手伝って、確認された遺構は、遺跡発見の契機となった貝殻堆積 1 箇所のみであった。 確認された貝殻堆積は渡り廊下の半ばの斜面段、現在の地表から 20 ～ 30cm 下にあり、その広がり約 30cm × 40cm であった。 貝の種類はハイガイである。貝殻以外の出土品はごく僅かであるが、平安時代後期とみられる土師器細片があり、貝殻が廃棄された年代を示すとみられる。	
評 価	： 操山丘陵から芥子山、幸島周辺などに点在する、古代末から中世前半の海浜貝塚群の一つとみられ、今回の調査でそうした遺跡の存在と内容の一端が明らかになった。 貝塚としても、今回のものは極めて小規模なもので、貝殻廃棄の一つのブロック単位を示すものとみられる。調査地が支柱の設穴に限られたため、遺跡の全貌は不詳であるが、西大寺小学校北端からその上の低丘陵には、こうした小貝塚が複数あったものとみられる。	

5 竹原貝塚の現状



岩倉山



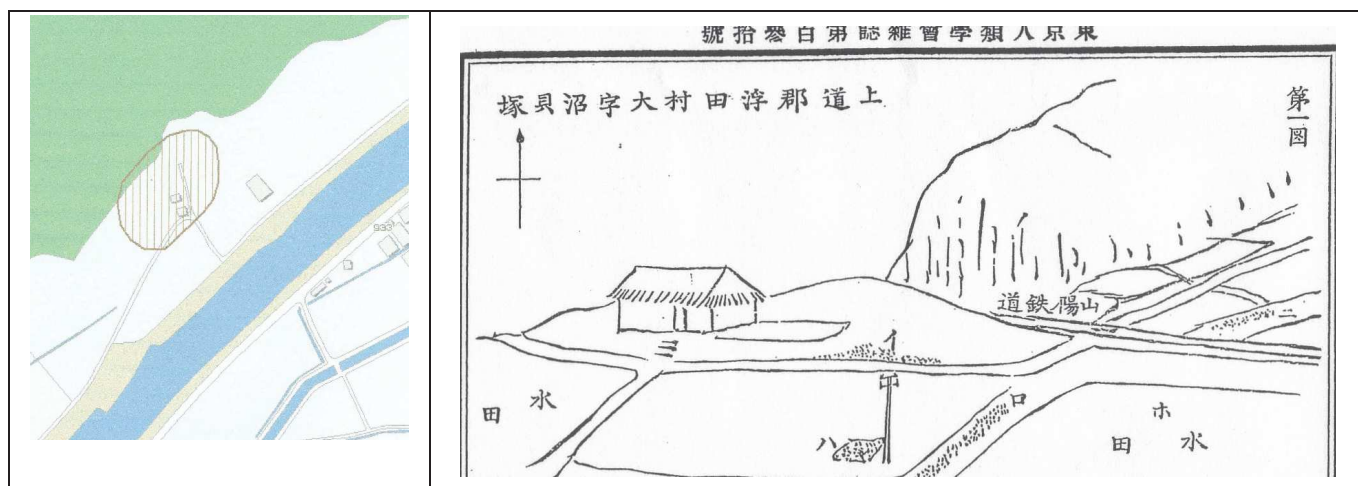
マガキ

沼貝塚の約 4Km 砂川の下流に竹原貝塚があります。岩倉山の東南の山裾です。昭和 8 年

に岡崎誠氏が発見しました。昭和 29 年に上道町教育委員会が調査し縄文土器と石器類が発掘されました。縄文時代後期後半の貝塚です。

出土貝類は、淡水性のヤマトシジミが主で、僅かにカキとハイガイが混在し、他にハマグリ、ヘタナリ、アカニシ、キセルガイなどが稀に発見されたと報告されています。

写真の貝は「マガキ」です。「マガキ」は養殖種として知られています。マガキが大量に散布していました。酒詰仲男氏らによって縄文時代にも養殖が行われていた可能性が提示されています。「マガキ」は「上道町史」には報告されておりません。



竹原貝塚

沼貝塚 東京人類学会雑誌第十二卷第三十号収録 明治 30 年

6 沼貝塚の現状



沼貝塚は沼の忠魂碑の在る丘陵の麓に山陽線の線路を挟んで存在します。縄文時代、砂川下流域に湾入した入江の最も奥まった場所です。山陽線の施設工事の際に偶然発見され、金山貝塚の発見者である沼田頼輔氏(1867－1934)が発見し、明治 30 年 1 月発行の『東京人類学会雑誌第十二卷第三十号』に発表した岡山県下で三番目に発見された貝塚です。

貝塚の上を山陽線が縦断したため貝塚は線路の下敷きとなり、縄文式貝塚とのみ伝承されていました。昭和 34 年 3 月の上道町教育委員会の調査で縄文時代前期の貝塚と確認されました。出土貝類は、淡水性のヤマトシジミが主で、僅かにカキとヘタナリが交じり、極く稀にハイガイが認められたと報告されています。

7 発見時の貝塚

金山西貝塚発見場所の現状報告写真では発見時の貝塚の状態は不明です。岡山市埋蔵文化財センターに貝塚の土層を剥ぎ取りした現物が展示されています。南方遺跡(国体町 岡山済世会ライフケアセンター)の貝層です。貝殻の集中する貝層、貝と土が混在する混土貝層、土だけの土層の体積の様子が観察できます。



貝と土が混在する混土貝層



貝殻の集中する貝層

8 まとめ

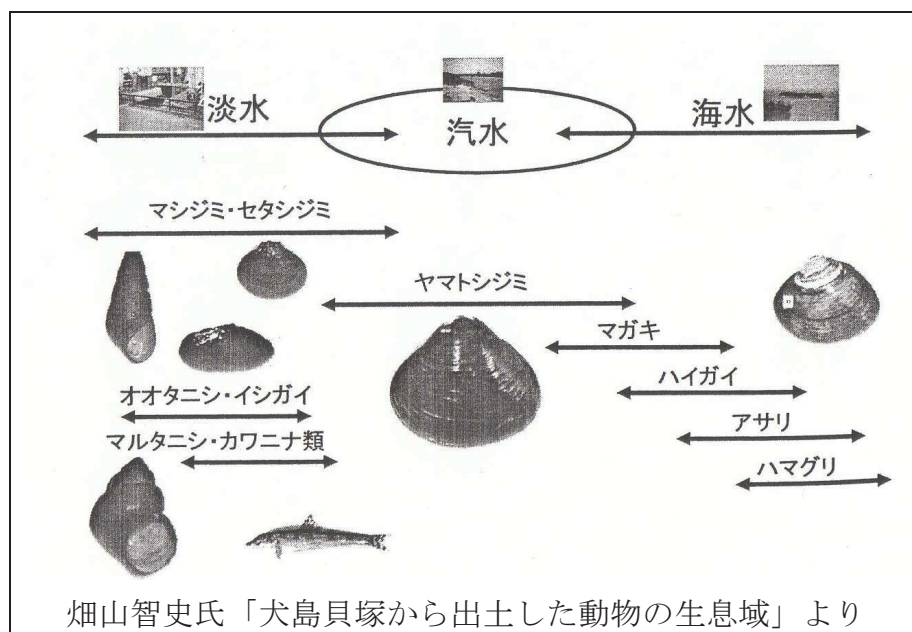
吉井川右岸の貝塚調査の目的は、「備前西大寺は吉井川の中州に発達した町です。吉井川の中州と瀬戸内海は何処で分離されるのか。」という市民レベルの疑問からです。調査過程で、新しく発見された金山西貝塚(縄文貝塚)の発見場所は金山の山裾であり、西大寺小学校で中世貝塚が発見された場所から直線距離にして 30m です。完全な生活圏です。この 30m の間に金山団地があります。

- ① 報告書のタイトルは「吉井側右岸の貝塚 現状報告」です。しかし、吉井側右岸の貝塚は金山貝塚、金山西貝塚、西大寺小学校の中世貝塚のみです。全て金山の山裾です。
- ② 吉井川右岸の貝塚は、あまり報告されていません。その理由は吉井川の川流変遷によるものです。縄文人の生活記録が吉井川の川流変遷により消されてしまいました。
- ③ 沼貝塚、竹原貝塚は砂川右岸にあります。縄文前期後半から後期までの間に両貝塚の間、約 4km の範囲の沖積化が進んだものと推定できます。
- ④ 竹原貝塚、沼貝塚とも看板が無く、案内者がいないと貝塚位置はわかりません。
- ⑤ 地図上で、ほぼ貝塚は 10m の等高線上にあります。
- ⑥ 備前西大寺の大部分は沖積平野であり、縄文時代は海面でした。
- ⑦ 吉井川左岸の貝塚は、豊原貝塚、山手宮坂貝塚、黒和貝塚など縄文時代各期の貝塚が知られています。
- ⑧ 小野伸氏が犬島貝塚を小野勢氏と発見したのは昭和 55 年(1980 年)8 月 23 日です。
金山西貝塚発見は昭和 55 年(1980 年)6 月 7 日です。犬島貝塚発見の 2 ヶ月前です。
- ⑨ 吉井川の中州と瀬戸内海は何処で分離されるのかを貝塚から発見した貝の種類から推定できます。畑山智史氏は犬島第一次発掘調査概報「貝塚」に、「犬島貝塚から出土した

動物の生息域」を報告しています。淡水・汽水・海水に生息している貝類の分類報告です。汽水とは海水と淡水の混ざりあった塩分の少ない水です。この表を「吉井川の中州と瀬戸内海は何処で分離されるのか」の解析に使用します。

吉井川の中州と瀬戸内海は何処で分離されるのか			
貝塚名称	発見した貝の名称	淡水・汽水・海水に生息する貝類の分類	発見した貝塚の年代
沼貝塚	ヤマトシジミ	汽水④	縄文時代前期 (約 7,000 - 5,500 年前)
竹原貝塚	ヤマトシジミ マガキ	汽水④ 海水③	縄文時代後期後半(約 3,300 年前)
金山西貝塚	ハマグリ	海水①	縄文時代後期前半(約 4,500 年前)
西大寺小学校 中世貝塚	ハイガイ	海水②	平安時代後期

①～④は、より海水の多い貝塚を①としました。



9 謝辞

岡嶋隆司様より金山西貝塚の基本についてご指導いただきました。抜粋報告です。

西大寺は吉井川の中洲に発達した町であり、岡山平野でも同一です。県南では、縄文海進以後、河川の沖積作用で微高地が形成されます。金山西貝塚は山裾に形成された貝塚です。金山の西には現在砂川が流れています。おそらくは、この砂川の河口を望む位置ではないでしょうか？ 河口には堆積により干潟が形成されます。ここには、河川により山からの有機質等の養分が運ばれ、貝類を含む多くの生物に有利な生息条件となります。遺跡形成当時、海に面した河川のある大きめの谷には、よく貝塚が形成されています。(例、彦

崎・福田・大橋など) また、分布調査など貝塚を探す一つの手がかりにもなっています。

西大寺の旧海岸線ですが、『岡山市埋蔵文化財分布地図』には「永安橋下流川底遺跡」(旧永安橋から現永安橋下手にかけてマーキング) として弥生～中世の散布地として記載されています。これは、吉井川の沖積作用により形成された微高地でしょう。

したがって、**金山に所在する中世貝塚は、この微高地により吉井川に面していませんから砂川河口から獲られたものと考えています。芥子山広谷に所在する中世貝塚も同様でしょう。**吉井川の旧河道と旧河口ですが、現在吉井川は、僅かですが不自然に射越あたりから西へ振っています。本来は、本流を含めた数本の流れが直進していたものと考えられます。河口もその辺りに有ったのかも知れません。

小野伸氏から平成 26 年 1 月 26 日に、沼貝塚の学会報告『東京人類学会雑誌 第十二巻第三十号』 明治 30 年 1 月 東京人類学会と金山西貝塚の発見時の写真を提供して頂きました。

10 参考文献

- ① 「山陽新報」明治 41 年 3 月 9 日、16 日、23 日
- ② 「西大寺町誌」昭和 46 年 西大寺町誌編集委員会 西大寺町誌刊行会
- ③ 「上道町史」岡崎誠 昭和 48 年 岡山市役所
- ④ 「ふるさと再発見 草ケ部の物語」中西厚 平成 23 年
- ⑤ 「彦崎貝塚 範囲確認調査報告書」2006 年 岡山市教育委員会
- ⑥ 「犬島貝塚-瀬戸内海最古の貝塚を求めて-」 遠部慎・犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム編 2009 年 六一書房
- ⑦ 「原色日本貝類図鑑」日本貝類学会理事 吉良哲明 昭和 34 年 保育社
- ⑧ 「東京の貝塚を考える」坂詰秀一監修 2008 年 品川区立品川歴史館編 雄山閣
- ⑨ 「吉備の縄文貝塚」河瀬正利 2006 年 吉備人出版
- ⑩ 「岡山県の考古学」近藤義郎編 昭和 62 年 吉川弘文館
- ⑪ 『東京人類学会雑誌 第十二巻第三十号』 明治 30 年 1 月 東京人類学会
- ⑫ 『創立百年誌』平成 18 年 岡山県立西大寺高等学校

